



イヌのしつけ方を教えて

ダメ、ヨシをはっきり区別して教える

3～4か月の子犬のころから、してはいけないダメと、ごほうびのヨシがはっきりわかるようにくり返し教えます。やさしく頭をなでてやるヨシと、軽くたたき、しかりつけるダメをはっきり区別してください。そのときどきの気分^{きぶん}で態度^{たいど}を変えると、イヌは区別できなくなります。

ダメ、ヨシでふんのしつけをつけるのは、次のようになります。かつてに、ふんをしたときは、しかりつける。おちつかずに、あちこち、におい^{におい}をかぎ回^{まわ}ったりするときは、おしっこやうんちをしたいときです。その様子を見て、トイレにつれていきます。うまくできたときはオーバーぎみに、ヨシヨシとほめます。

オアズケ、マテなども大事です。そのほか、知らない人からえさをもらわない、拾い食いをしないというしつけは番犬^{ばんけん}として大切^{たいせつ}です。外に連れ出したときには、飼い主^{かぬし}にくっついて歩く^{ある}くせもつけさせましょう。本格的な訓練^{ほんかくてき}は、それを専門^{せんもん}にする訓練士^{くんれんし}などに、まかせるほうがいいでしょう。

毎日のせわ

飼い主^{かぬし}が、毎日^{まいにち}しなければならぬことは、運動^{うんどう}させることです。朝^{あさ}と夕方^{ゆうがた}の2回^{かい}30分以上^{ぶんいじょう}の運動^{うんどう}に連れ出^だしてください。イヌは、もともと、広い野原^{ひろのはら}を歩き回^{ある}り、あちらこちらをたんけんして回^{まわ}るのが好き^{よっきゆうぶまん}です。くさりにつながれたままだと、欲求不満^{よっきゆうぶまん}になります。やたらにほえたり、かみついたり、気があ^きらくなって、人の言^{ひと}うことを聞^いかなくなったりします。このような状態^{じょうたい}では、しつけはできません。（監修・今泉 忠明）

